

令和8年度第5回黒塩地区廃棄物最終処分場環境対策協議会 会議録

- 日時 令和8年7月21日（火） 18:30～:20:25
- 場所 黒川町コミュニティセンター 研修室
- 出席委員 黒川町11名 牧島地区11名
- 顧問 2名（市議）、調整 2名（コミセン長）
- 伊万里市 環境政策課長、リサイクル推進係長
- 事業者 代表取締役

1. 開会

事務局：伊万里ケーブルテレビからの収録等の申し入れがあり、許可している。

2. 会長挨拶

先週は視察に行かせていただいた、視察報告の中で詳しく報告させていただく。
猛暑の中、お集まりいただいたことに感謝したい。

3. 質疑への回答 **資料1** **資料2**

樋口教授：市からお借りしている資料だけでは、判断できない部分もあるため、
今回は一般論として回答させていただきたい。

※事前に委員から質問があった分（資料1）について、樋口福岡大学名誉教授
より回答・説明される。（資料2）

【質疑応答】

委 員：処理水の放流先が閉鎖的水域であるため、令和5年の市の調査では環境
基準B類型3型ですでに基準をオーバーしている。その中に新たに処分
場から排水されることで、伊万里湾にどのような影響があるのか。

樋 口：生活環境影響調査では水質に影響はないとされているが、すでに環境基
準を守るのが難しいのであれば、県は少しでも上乗せ排水基準を設け
るべきだと考える。

委 員：受け入れる廃棄物について、事業者は伝票等でチェックするとの説明で
あったが、それだけで十分なのか。

樋 口：受け入れる廃棄物はマニフェスト伝票で管理されるが、石綿などはか
なり厳しくチェックされているので、基本的には伝票管理でチェック
できると考える。

委 員：樋口先生には一度、現地に来ていただきたい。

樋 口：現地も見ないで、あれこれ言うのはどうかと思うので、一度、現地を見
たいと思っている。

会 長：他に委員からの質問が無ければ、樋口アドバイザーはここで退席される。

4. 視察報告

会 長：百聞は一見に如かずで、実際に水処理施設などを見ることで、安全性などの不安が解消できた。埋立地は表面を土で覆われており、ゴミの山に見えるということではなかった。遮水シートの現物を改めて見せてもらい、裂けて浸出水が染み出ることはないだろうと感じた。中間処理をされたものが最終処分場に持ち込まれるが、ゴミがそのままの状態を持ち込まれると勘違いしている方もいらっしゃるかもしれない。第2陣で行かれる方もそういったところを見ていただきたいと思う。

委 員：視察報告を作成したのでご覧いただきたい。

（委員より別紙 視察報告により報告される）

委 員：補足として、跡地利用について、地元として事前に計画をされていたが、事業者が地元の総会や協議会に出席するたびに要望が何度も変更されているとのことであった。また、三重県では8か所目の処分場を計画中とのことで、実績としてはかなり信用できると感じた。

委 員：実際に行ってみて、持続可能な廃棄物の適正処理がなされている。住民の生活や産業と自然との共生を企業理念とされており、地元と良く話し合いをして、何十年も取り組みをされていることが分かった。行って良かったと思った。

会 長：ここまでで既に20時を過ぎているので、5. 協議事項については、次回とし、次第6. 今後の流れに移りたいと思うが、よろしいか。
（異議なし）

6. 今後の流れ

（事務局より次第6. 今後の流れを説明）

事業者より

国道の拡幅工事に合わせ配管を敷設することを以前説明していたが、先週、完了したので、この場を借りて報告させていただきたい。国道には、直径80センチの菅が2本と40センチの菅が1本、15センチの菅が1本入っている。現在は、ここから水が入らないようにベニヤと土嚢で抑えている。仮に海水などが入った場合を想定して、砕石を入れて水通りを良くしている。排水の出口には蓋（フラップゲート）を付けて逆流しないようにしている。

委 員：最大満潮時にはどのあたりまで海水が上がるのか。

事業者：1年間を通じて大潮で一番高い時でも菅より下になる。

(事務局より今後のスケジュールの確認)

7. 閉会